

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300119		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家帝塚山(1)		
所在地	大阪府阿倍野区帝塚山1丁目10番地7		
自己評価作成日	平成30年4月5日	評価結果市町村受理日	平成30年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のボランティアの方を呼んでレクリエーションを行っている。毎日、レクリエーションや行事など行い楽しんでいただくように職員創意工夫しているところ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは開所から1年が経ち、利用者をはじめ皆が楽しいと思えるような活気のある場所を目指すと共に地域密着型事業所として地域とのつながりを大切に日々取り組んでいます。年間を通して天気が良ければ散歩や買い物に出掛けたり、家族にも案内して季節毎の花見等の外出の機会も多く、日々のレクリエーションでは職員が担ったり様々なボランティアを受け入れ楽しみごとの支援をしています。また食事作りではリクエストメニュー等利用者が楽しめたり、能力を発揮出来る場面を通して生き活きた生活に繋がる取り組みを行っています。地域においては案内をもらい盆踊り等の地域の行事への参加やホームの夏祭りや餅つきの際は地域の方を招き行い、また小学生の訪問もあり地域の一員として積極的に交流が図れるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全員で理念を作り、理念を共有するために申し送り時に読み合わせを行い。玄関に掲示している。	開所時に併設の小規模多機能事業所と合同でどのような施設にしたいかの職員の意見を集約し理念を作成し、玄関に掲示しています。申し送り時には定期的に理念の読み合わせを行っています。開所から1年が経過し、今後理念の振り返りやフロア毎の理念の作成等話し合っていきたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など行いながら地域の方とふれあい交流している。地域の行事なども町会回覧板や運営推進会議などで情報を頂き積極的に参加している。 (盆踊り・ハロウィン)	開設前より町内会に説明をし、町会の協力を得たり、繋がりを持つよう話し合いを行っており、地域の行事に利用者と一緒に参加したり地域の消防訓練等にも参加しています。ホームで行う夏祭りや餅つきの際は回覧板やポスティングで案内を行い地域の方の参加を得ています。また小学生との交流や様々なボランティアの来訪があり交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	帝塚山中町会で初めての高齢者施設であるため、町会と協力して地域の方々に向けてのイベントを企画中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議行い家族様、地域の方々との日常生活について話し合っており理解を得ている。意向を伺ったり、意見を頂いたりしている	運営推進会議は家族や町会副会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に1回行っています。会議では利用者の状況や行事、ヒヤリハットや事故の報告を行い、写真も見てもらいながら参加者から意見やアドバイスをもらっています。参加者から災害時の対応についての質問があり施設の体制を説明したり、役立つ物品の情報をもらう等意見交換の場となっています。また町会の協力を得て認知症カフェや介護相談会、施設見学等に向けての話し合いも行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、資料、議事録を提出しご意見いただいている。	基本的に行政との連携は法人を通して行われていますが、運営推進会議の議事録を窓口を持参した際や区の連絡会に参加した際は担当者との関わりを持っています。行政から研修案内があれば出来るだけ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とフロアの施錠は行っているが日々施錠しないためにはどうしたらよいか職員同士で考えて話し合うようにはしている。30年、4月の報酬改正にむけて法人内でもさらなる身体拘束をしないケアにむけて、研修、委員会をたちあげとりくんでいる	年に1回身体拘束や人権、虐待に関する研修を法人で受講し、ホームで伝達研修を行い職員に周知しています。また言葉による行動の制止に関しての勉強会や話し合いをホーム会議時に行っています。安全の為に家族の了解を得てセンサーマットを使用しており、カンファレンスで話し合いを行っています。また外出希望の利用者には一緒に外に出る等の支援を行っています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の年間研修計画にそって年1回研修実施している。一人一人防止に努めてきている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修を受講している。現状活用の必要性のあるご利用者はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様に入居前に十分な説明を行い契約しており理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人で年1回顧客様満足アンケートを行い従業員満足アンケートを行い運営に反映させている。	利用者の要望は日々の支援の中で聞いています。家族からは面会時や行事、運営推進会議、満足度調査の他毎月家族に詳細な報告とモニタリング結果を送付し、その際にも意見や要望を聞いています。家族からの要望で1階玄関に職員の写真と名前を掲示しその日の職員がわかるようにする等、得られた意見は家族と相談や協力を得ながら対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員が業務改善提案書を提出することが出来る。社長に直提出される物で運営に反映されている。	月1回の施設会議とカンファレンスがあり話し合いを行っており、出席出来ない職員には事前に意見をもらっています。職員には日々の活動やリクエスト等のレクリエーションを役割分担し任せています。管理者による年1回の面談や随時の声掛けがあり、また従業員満足度調査等法人として様々な体制が整っており、意見を出しやすく働きやすい環境が整えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職へのキャリア段位制度、誰のび人事制度、自己申告制度、前向きな思考をもつコーチング研修、ほめあう社風を作る、ありがとう、褒めカードなどを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人、内部の研修をうける機会を確保しておりキャリア段位制度、グループホームに対して入社時研修、認知症研修4日目が追加されました		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修なども積極的に参加している。同業者の方との交流持つ機会も作っている。法人内でグループホームの管理者・フロアリーダー・計画作成担当者がそれぞれ集まり研修・会議を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に管理者と計画作成者がアセスメントを行い、本人や家族が困っていること等を聞いて関係性をつくっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に管理者と計画作成者がアセスメントを行い、本人や家族が困っていること等を聞いて関係性をつくっていくことと、初期の段階では家族との連携を密に摂っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内で居宅、訪問介護、認知ディサービス等あり連携し支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯など出来る事を出来るだけして頂くようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での行事の一緒に参加して頂いたり、面会時に散歩をお願いしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔行っていた場所に散歩などしたりして関係をとぎれないようにしています。ご家族から馴染みの場所や人の情報を頂きながら支援に繋げている。	友人や知人、以前近所に住んでいた方等の訪問があった際は、居室等のゆっくり過ごしてもらえる場所に案内をしています。神社や池がある公園等馴染みの場所や自宅を見に行ったり、家族と馴染みの美容院に行く方もいます。正月に自宅に帰る際には出掛ける準備の支援をしています。また電話の取次ぎや年賀状や手紙の支援も行っています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、協力しあいながら家事など手伝えることは手伝うように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去(転居)された方への面会に行っている。 東京在住家族を同居を始めた方にはお手紙を出したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いにあわせた支援をしており、コミュニケーション困難な方は本人の気持ちになって支援しています。	入居時に家族にこれまで生活状況等の情報や意向を聞いて聞いてフェイスシートを作成しています。入居後は個人記録に得られた思いにつながる情報も残し、意思疎通の困難な場合は家族に聞いたり、表情やサインを見てカンファレンスで話し合い、本人本位に検討し以降の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活してきた環境を壊さずそのまま生活していただくように支援しています。家族様からの情報やご本人から聞き出す努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や体力に合わせ後眠して頂いたり、さまざまな活動をして頂いたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを行い職員同士で話し合いその人にあう介護計画作成しています。毎月のモニタリングとその月の様子を	ケアチェック表を用いたアセスメントを基に作成した一人ひとりの状況に即した介護計画は、入居後初回は1か月で見直し、その後は短期目標は6か月、長期目標は1年毎の見直しを基本とし利用者の状態に変化があれば随時見直しをしています。毎月モニタリングと評価を行い、見直しの際は再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開き事前に聞いた家族や医師、看護師等の意見を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残して日々のケアの情報を共有するようにしています。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望、状況に合わせ通院の支援を行っている。自宅へ定期的に帰り家族と過ごす時間を作る様支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへの買い物や花屋に物価を階に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携して医療が必要時にはすぐに受診できるようにしています。馴染みのある主治医を継続して受診できるよう支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いており、継続している方は往診や家族または職員により受診しています。ホームの協力医による定期や随時の往診があり、ホームの看護職員と連携を取っており、24時間連絡可能な体制となっています。希望により週に1回口腔ケアや治療で歯科医の往診があり、その他専門医については家族や職員が受診の対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携しながら緊急時や日々のケアで相談連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携できる病院を確保しており緊急時にはすぐに対応していただくようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはチームケアとして家族様や他の分野の方と連携してしくように話しあっている。	入居時に重度化や終末期ケア対応に係る指針にそって説明し、ホームで出来る事、出来ない事を伝え同意を得ています。これまでに看取りの経験があり、医師に状況を説明してもらい、家族の意向を聞きながら医師や看護師、職員で話し合い方針を決定し支援しています。また看取りに関する研修が年に1回法人で実施され、ホームで伝達研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急時対応の研修を受講している。事故の振り返りで、施設内でも、緊急時対応(喉詰り)、AED使用法等の実践研修を行う。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回消防訓練を行うようにして避難できるようにしています。地域の消防避難訓練に参加する。	年に2回消防訓練を実施しており、1回は消防署立会いの下屋間の想定で行われ、1回は独自で夜間想定で行っています。訓練では通報や利用者と一緒に階段で避難誘導をしたり、初期消火等を行っています。4階建ての施設の為消防によるはしご車の訓練も行われ、近隣の方も見学に来ています。また地域の訓練には管理者が参加し、備蓄の準備もしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけはひとりひとり丁寧にいきいきと対応しています。	法人で接遇マナーの研修があり、ホームで伝達研修を行っています。管理者は利用者は目上の方である事を伝え、言葉遣いに留意する事や親しみの中にも節度を持った対応について説明しており、不適切な場面が見られた場合はその場で注意したり、申し送り時にも全体的に注意喚起をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物など行った時に本人に決めていただいて購入しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人それぞれのペースにあわせながら生活できるように支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服も本人に決めていただいて着るようにしていき化粧なども出来る方はいていただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も調理手伝える方は盛り付けなど手伝い、食器やお盆ふきなども行っていただいています。	献立にそって業者から食材が届きますが、季節や行事に合わせた献立となっており好みを伝える事も可能です。また月2回のリクエストメニュー時は買物から利用者と一緒に楽しんでいます。利用者には皮むきや炒め物、洗い物等の後片付け等日々出来る事に携わってもらい、職員も一緒に同じ食事をしています。おやつを手作りする他、回転寿司等への外食にも出掛け食事が楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあつた食事量を提供して栄養バランス確保するようにしています。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行うようにしており訪問歯科と連携して口腔内清潔にしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつはあまり使わずトイレで排泄できるように促しています。	利用者全員の排泄を記録してパターンを把握し、立位の取れない方以外はトイレでの排泄を基本としています。自立している方も多く布の下着で過ごしている方が多い状況です。ホーム入居後にトイレの誘導を行ったり、体調の回復があった方は排泄状況が改善する事もあり、また排泄用品についてはカンファレンスで話し合い利用者一人ひとりの力を活かした支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヤクルトや乳製品を提供したり、毎日ラジオ体操、棒体操、笑いヨガ(健康体操)など体動かす時間作り便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴しており本人に午前か午後か確認して希望の時間に入浴していただくようにしています。	木曜日以外を入浴日としていますが、希望があれば対応しており、週に3回入ってもらえるよう支援しています。湯は一人ずつ入れ替え、入浴を楽しめるように菖蒲や柚湯等の季節湯や季節に応じた入浴剤を使用しています。入浴拒否のある方には声掛けする職員を変更したり、時間帯や日を変える等工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人たちが眠いというのであれば安心して眠れるように支援していきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	しっかりと服用できているか最後まで確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗い物、洗濯物たたみなど本人たちの役割を決めることで本人たちの持っている力を発揮していただいています。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かくなってきたので、毎日散歩に出るようにしている。家族にも協力して頂き、戸外へでる機会を確保している。	一年を通して散歩や買物に出掛け外出の機会も多く、初詣や桜やつつじ等の花見、ホテル観賞、盆踊り、紅葉狩り等の季節毎の外出を支援しています。長居公園、万代池等の外出の際は家族にも声を掛け一緒に出掛けています。少人数で買物に行ったり、家族の協力を得て自宅に帰ったり、散歩に出掛ける事もあり、またベランダに出て外気浴や併設施設との交流の機会もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと落ち着かない方には少しのお金を持っていただくようにしています。ご利用者様の「おこづかい」としてお預かりし必要な時、希望があった時に使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のとりつぎ、お手紙のやりとりの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的で不快な気持ちにならないように環境整備しています。季節感を感じていただける装飾を職員、ご利用者と共に作っています。	ユニット入口には写真を掲示し、フロア内は利用者の作品や一緒に作成した季節毎の飾り等季節感や温かみを感じられる空間作りに努めています。リビングのテーブルは利用者の状況や相性を考慮し配置しています。掃除は毎日行い、温湿度計を3箇所設置し確認し利用者に体感を聞きながら温度調整したり、空気清浄加湿器を置き居心地の良い共用空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は自由にすごしていただけるスペースで机と椅子が置いてあり、そこで利用者様同士、会話楽しむ空間作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には家で使っていたタンスや布団など持ってきて使っていただいていた馴染みのあるものにしていきます。入居後、レクや行事での本人の写真や制作品を飾ったりしています。	入居前に自宅になるべく足を運び、家族へ使い慣れた馴染みの物や大切にしている物を持ち込んでもらうよう説明しています。仏壇や家族の写真、金庫等大切にしている物やテレビ、筆筒、テーブル、椅子等これまで使っていた物を持ってもらい配置しています。また趣味のミシンや編み物や裁縫等の道具、携帯電話等を持ち込んでいる方もおり、利用者も出来る事に携わりながら掃除機をかける等快適に過ごせる居室となるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の部屋がわかりやすいようにはりがみやその向きなど工夫しています。		